



釋迦御一代記圖會

壹

18
563
1-8



門波 13
號 593
卷 1-6

山田立意齋叟參考
前北齋卮老人繡像

山田里

釋尊御代記圖會

全部

六冊

書林

東都青木嵩山堂
浪華岡田群玉堂

世尊一代圖會序

老哉世尊出世難哉苦行
深哉佛法不知何教權實
頓漸之法兼以度一世乎
夫知愚各異其性無二經

吉田

云不生不滅不增不減故
曰至道無難讀世書者見
野亭北齋為何物徒多愚
衲紹介何益之有
天保十年冬十一月

紫野黃梅院前大德

大德四百卅五世大禪撰





地風

悉達太子之后妃
 耶偷陀羅女像

釋迦牟尼



空

大恩教主
 釋迦牟尼如來法像

卷一



火

斛飯王之太子
提婆達多之像



水

淨飯大王之后
驕曇彌夫人之像

新編 國史 卷七

四三

釋迦如來御一代圖會總目錄

卷之壹

師子頰王禪寶位太子

百國王朝迦毘羅城圖

淨飯王治世築西臺

善覺臣二女入内

摩耶夫人懷妊

摩耶夫人感靈夢圖

憍曇彌夫人現蛇身圖

憍曇彌嫉妬招摩耶

儀伯無間呪詛摩耶夫人

摩耶夫人奇病并夢中說法

卷之貳

著閣診脉摩耶勸墮胎藥

老翁相摩耶說胎内皇子高德

相者們討論摩耶夫人容體圖

摩耶夫人夢裡聽十恩說

藍毘尼園催花宴

悉達太子降誕現天地瑞異 同圖

摩耶夫人逝去

悉達太子入學阿私陀仙示三十二相

悉達太子与提婆拈藝

悉達太子與諸童子捕射術圖

提婆與旃陀角觥圖

淨居佛一試悉達太子

提婆太子擊大象圖

淨居佛二試悉達太子

悉達太子娶耶愉陀羅女

悉達太子與達婆太子鬪馬術圖

卷之三

淨居佛三試悉達太子

淨居佛化比丘試太子圖

諸童子為太子語諸國地理圖

悉達太子暗知檀特法基

悉達太子出官中赴檀特山

耶愉陀羅女與太子悲歎留別圖

悉達太子赴檀特山圖

悉達太子託遺物車匿

迦毘羅城騷動車匿獻遺物

悉達太子於檀特山師阿羅々仙 同圖

悉達太子於般若基師伽羅々仙

天女靈鬼告因位善惡應報

耶愉陀羅女生若宮

悉達太子苦行雪山降魔軍

悉達太子得四偈正覺成道

靈鬼授悉達太子四偈圖

三迦葉師釋尊

釋尊宿迦葉石室圖

三迦葉飯伏釋尊圖

卷之四

舍利弗目蓮歸釋尊法門

聽世尊法助出罪囚獄中圖

安陸說舍利弗佛偈圖

世尊謁淨飯王若宮認如來

世尊赴夕陽山圖

阿難迦難優婆離耶愉陀羅女得道

世尊於忉利天謁二世母君

提婆寇世尊并卒都婆功德

世尊大神通懲魔軍圖

提婆勸謀叛斛飯王

世尊使難陀羅睺羅見三冥途

世尊示二太子三冥途圖 其二

世尊昇殿賜勅衣

離婆多依無失罪囚獄中

離婆多遭呵責圖

難陀王即位并淨飯王崩御

卷之五

靈鷲山三迦葉大鬪魔軍

三迦葉与魔軍鬪神通圖

魔種欲妨佛法却窘

提婆與惡諸國太子

欲冠世尊提婆墜活地獄

同圖

目蓮干活地獄救提婆圖

須達宿月蓋舍拜世尊

須達長者買祇陀園

滿地布黃金須達買祇陀園圖

拈神通舍利弗降六道師

舍利弗現大神通挫道師圖

卷之六

祇園精舍造立昆首謁摩手彫木佛

天童扶謁摩手令造木佛圖

世尊說木佛功德

大愛道比丘尼泥洹

流離王屠殺伊沙衣耶國人民

流離王鑿伊沙衣耶國人民圖

流離王雷死天火烧宮殿

雷神罰流離王王臣圖

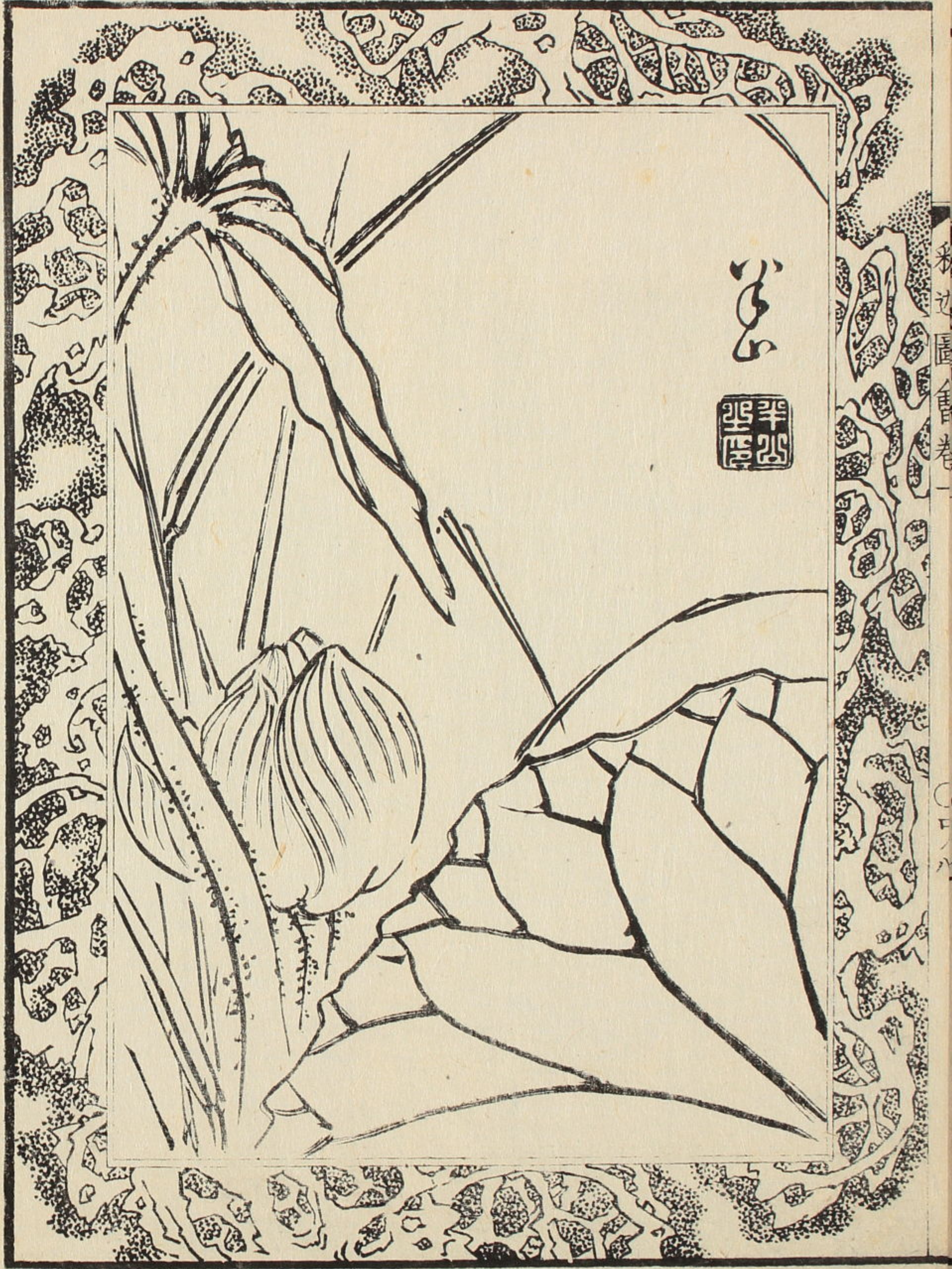
釋尊御一代說法大略

舍衛國人民屠大魚圖

釋尊遺言并涅槃

如來滅後現五妙神力

總目錄畢



釈迦御一代圖會卷一

〇目錄

釋迦御一代圖會卷之壹

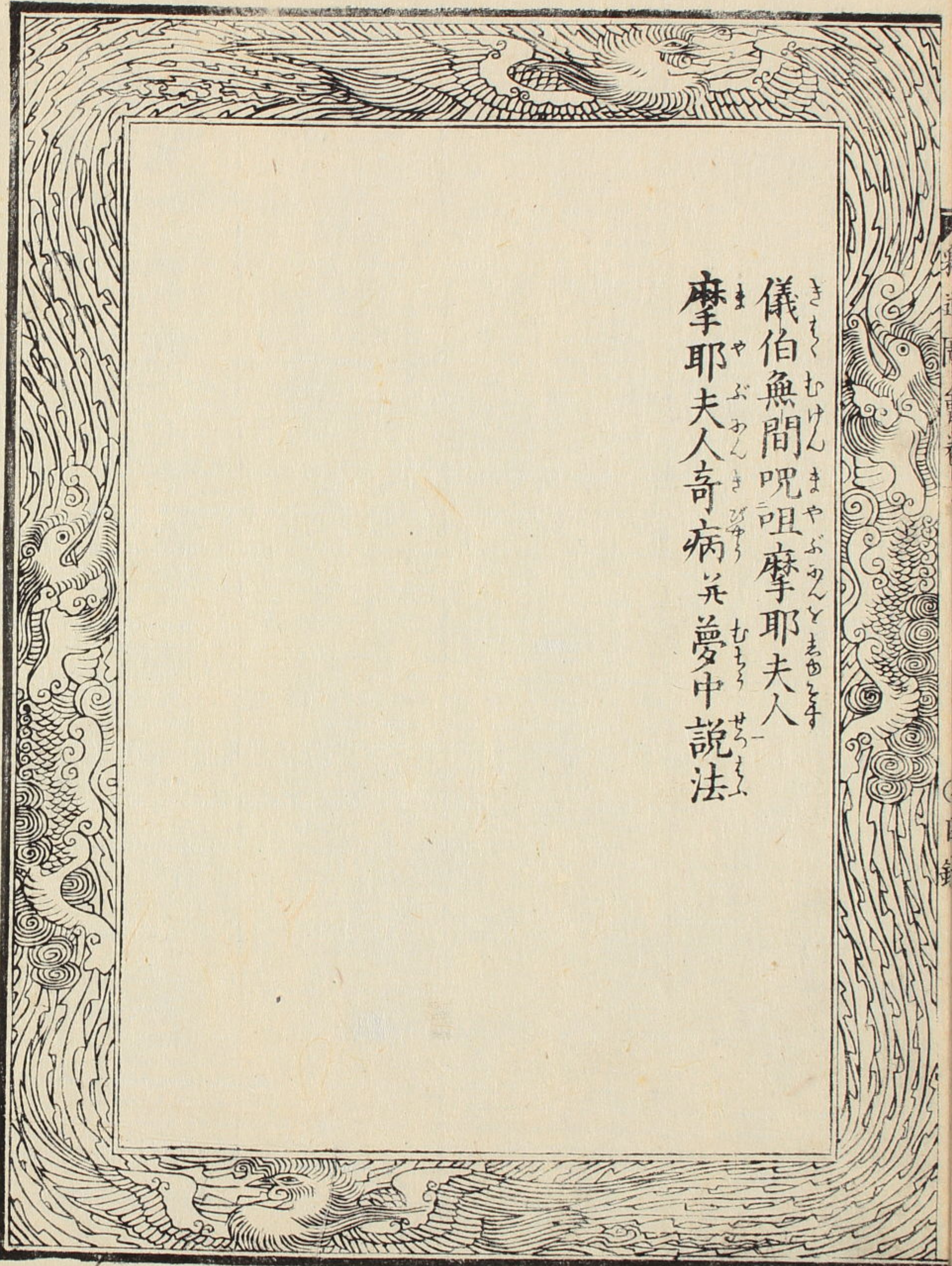
目錄

- 師子頰王禪寶位太子
- 百國王朝迦毘羅城圖
- 淨飯王治世築四基
- 善覺臣二女入内
- 摩耶夫人懷妊
- 摩耶夫人感靈夢圖
- 橋曇彌夫人現蛇身圖
- 橋曇彌嫉妬招摩耶

釈迦御一代圖會卷一

〇目錄

儀伯魚間呪摩耶夫人
摩耶夫人奇病并夢中說法



釋迦御一代圖會卷之壹

師子頰王禪室位太子

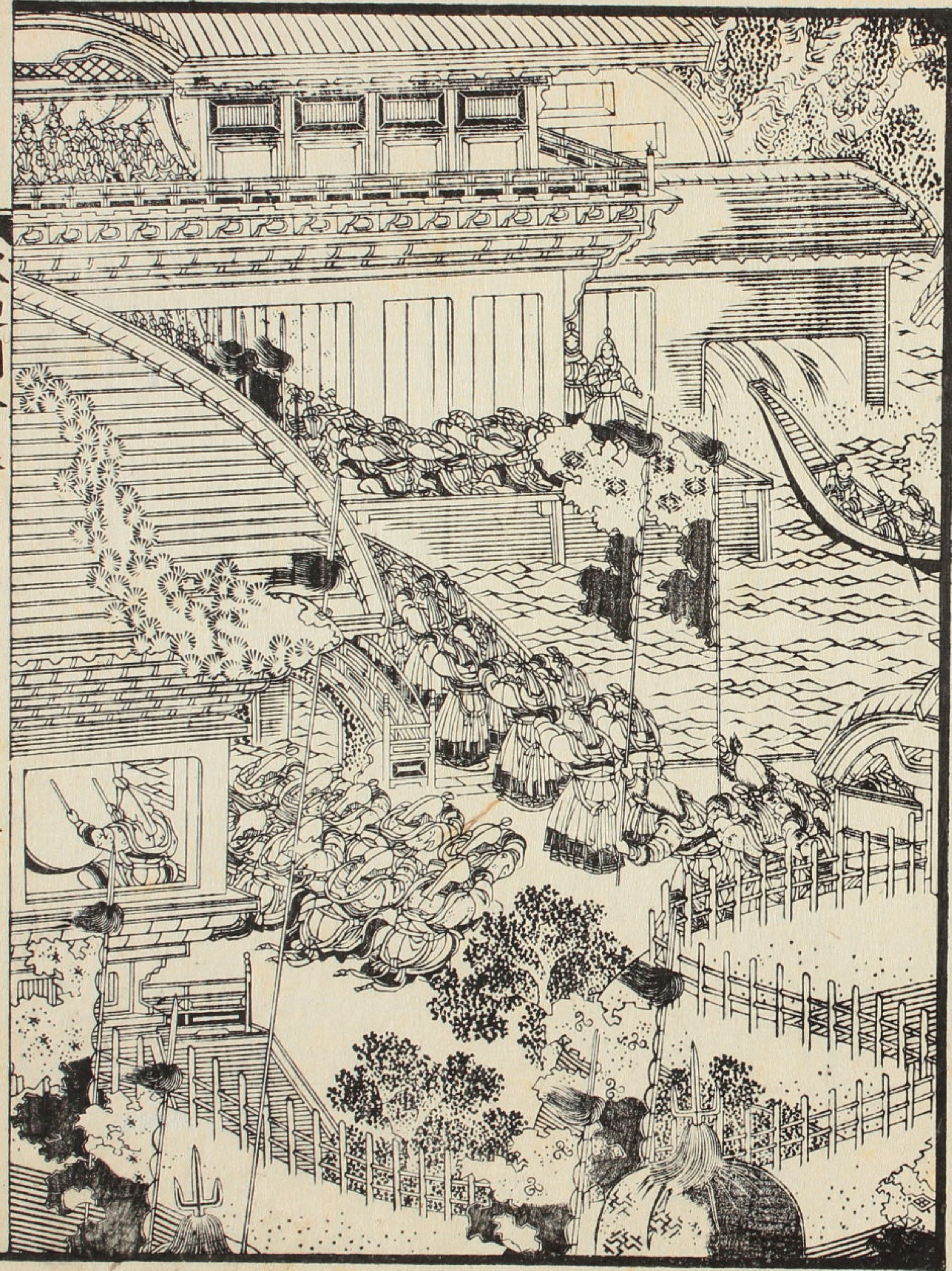
浪華好蒼堂野亭考選

曾聞大思教主釋迦牟尼世尊一代乃經論ハ神妙寂通甚深微妙ハ千
 條萬端不可説不可思議の蘊與豈庸愚の窺ふ處ナリ人ヤ和漢歷代乃
 知識碩德萬億の書卷ハ淺獵ハ句を推章を考ク譯解撰釋トシ書
 千々の倉粟乃棟ハ充萬々の牛馬ハ汗トシ猶其分限を盡トス斐然トシ
 且老ハ至ラズ且晝夜を捨トシ是を閱トシ何を其極ハ到ル斐を得ル況
 一帝上ハ如来の切徳乃萬一をも述ル斐然トシ魚帝婦女童蒙乃為子其
 大略を習ハル初の天地已ハ開闢陰陽の氣凝結トシ三千大千世界ハ中
 小天竺月氏國トシ其國五方ハ分テ東天竺西天竺中天竺南天竺北天竺是也
 其中天竺の裡なる摩伽陀國乃帝を懿摩王ト号シ轉輪聖王の位を踐
 四天下ハ威を震ハシハ子孫連綿トシ續嗣トシ三十六代ハ及ブ大王を師子頰王

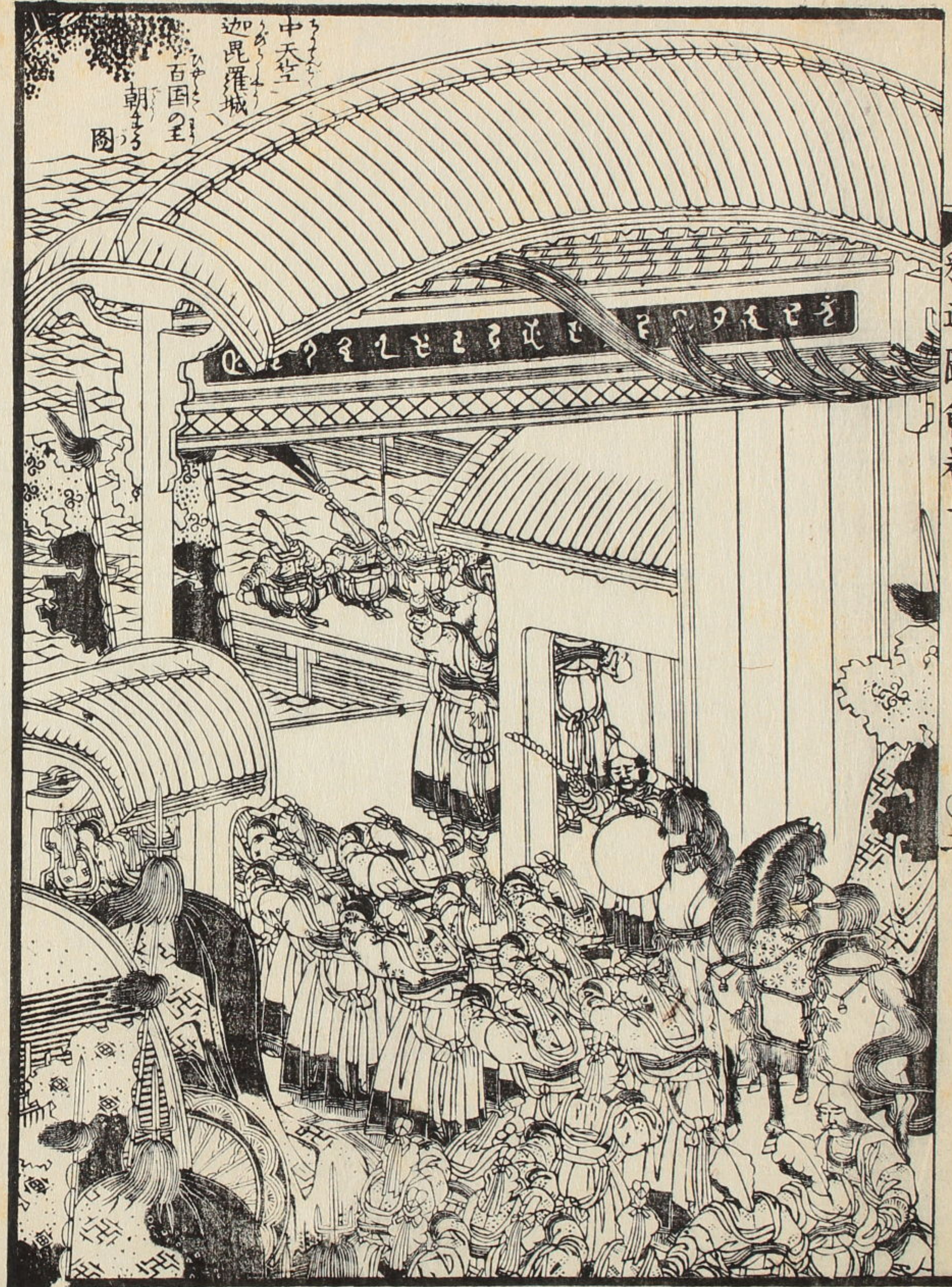
と称する此王四人の皇子在り第一浄飯太子 御父也 第二甘露飯太子 阿難の
第三白露飯太子 可難の 第四斛飯太子 提婆の 此四人乃皇子比皆賢智小勝多
頼王也 聖徳明也 萬民を撫育あり 八荒従ひ靡れ 五風十雨時を違へど
萬方安寧なり 然小師子頼王年齢已小圃むひを 一日文武乃百官を朝廷へ
召し 頼王詔して曰朕祖宗乃譲を受て國政を聴くと五十年 卿等國忠を属
政を補佐ふより 四天下昌平也 逆乱の瀾起む故小朕宮中小安卧し 魚比乃
娛樂を極る 吏を得たり 然も 齡已小傾なり 起居心小任せむと 朝政を更にも
失忘とする 所多々れ 恐く 萬機の政を過つ 吏ありん 因て 王位を太子小譲り
朕ハ山居し 静小老を 兼んと思つ 卿們 悉く 商議して 四人乃太子の裡 十善
乃位を踐る 乃器量を見定 帝位小即り 命よと 宣命ある 群臣 詔命を奉りて
あつと 畏り 領掌し 三公の 弟 日光臣階を 進出 奏と 詔命乃 趣け
いも 芽出 した 睿慮 小臣 愚案を 回し 小四人の 皇子 何も 聰明 睿知 小渡

せむ 中 小の 今 浄飯太子 仁徳 天地 小則り 小入望の 飯 小所 小古より 嫡子
小世を 譲 小天下の 大法 小い 小須く 浄飯太子 小萬乘の 密位を 譲 小せむ 小
と 奏 小も 満延 乃 月 卿 雲 客 口 小を 奏 小実 小日光 臣 乃 啓 奏 理の 當 然 小い 乃 小
奏 聞 小師子 頼王 睿慮 嚴 小日光 臣 告 小も 朕 小意 小合 小り 小譲 小位 小浄
飯 太子 小一 決 小博士 小命 小吉 日 良 辰 小を 小程 小其 日 小成 小玉 殿 小を 七
密 小に 莊 嚴 小譲 小位 乃 儀 式 嚴 重 小具 小浄飯 太子 小高 座 小結 小三大 臣 小首
と 小文武 乃 百 官 諸 國 乃 王 侯 位 階 小依 小奇 羅 星 乃 如 小列 座 小師子 頼
王 小天地 小を 拜 小御 手 小摩 陀 國 小傳 小密 貝 七 密 七 流 小の 脚 篋 小を 執 出
小浄飯 太子 小授 小其 品 小

- 第一 月藏轉倫王傳來之月氏國景普并密壘
- 第二 四神龍道靈弓同四通神力靈箭
- 第三 四魔能莫惱之白蓮劍



天
地
圖
會
卷
一



中天
邊
羅
城
百
國
朝
圖

天
地
圖
會
卷
一

第四閻明如意密珠 所謂夜光珠也

第五從蓬萊仙宮所獻轉輪王王冠

第六拂汚滅不淨王幡同縵蓋飛龍鉞

第七五天竺山道海道陸野道地圖

右七種の密具を讓りむむ。太子敬で頂戴あり。夫より種々の儀則あり。即位乃式滯なく畢れ。満堂乃公卿百國乃王一齊。淨飯王を拜賀して。密位を祝し萬歳を唱へ悦勇まどく。よ者か。頰王重て曰淨飯王已即位ある。大残りの三太子も小國の王も封じたり。先弟二甘露飯太子も位官伯長の司となり。弟三白露飯太子を聖道文武乃司。弟四斛飯太子を白道無為の司となり。且封國の紹命ある。抑六伽陀國より四方の國と四道に分てり。東八東下道と号其末より四道に分てり。南海道東陽道西陽及北陽道是なり。國の數四十五箇國。其裡十五ヶ國を甘露飯王小賜ひ。旃

那羅國を任國と定らる。南、南陽道其末三道に分てり。昔陽道白陽道黃陽道國の數三十五ヶ國。其裡昔陽道五ヶ國を白飯王小賜ひ。尸羅摩國を任國と定らる。西、西徑道其末二道に分てり。伯耆道北陰道國の數二十三ヶ國。其裡伯耆道三ヶ國を斛飯王小賜ひ。伊婆那國を任國と定らる。偕北ハ北陸道其末二十四道に分てり。南、北、北易微子と云。山海郊野幾千里と云。涯を去る。是を五郡七穢十蘭七戸三滴一島と呼たり。其末且さ。其末三太子も任爵封國有れ。帝恩を厚く謝し悦ぶ。支斜なり。頰王も睿慮總小く。眞婁を用た。賑ひむ。緒人大い。小悞樂を究め。醉を盡し。後退散たり。是より頰王六仙洞小秘住し。静小老を親む。て終小密筭八旬小く。登霞有る。尊り。御事たり。

淨飯王治世築四基

淨飯王八萬衆の密位を受て。轉輪王の位を踐。天皇地皇醫療明道の政

事掌小納りしを。群臣を朝廷小集て詔命ありき。朕若年不徳乃身を以て天位を踐と。慙愧不堪と。又大王乃嚴命已吏を得を室祚を辱せり。卿們宜しく朕が不敏を補ふ。一点乃過失をも練り正し。政道邪曲なく。奢を省れ儉を守り。萬民を安んず。安逸なく。國豊小民栄へ道廣く。四見昌平な。朕が願所なり。それ人を眞実を以て。慈愍を以て。母と敬を以て。兄と。信を以て。弟と。如是なれ。國中皆又母萬人皆兄弟なり。人の悪を忍ぶ。是を練り。人乃善を見。俱小従ひ行。萬人一人の師なり。一人を萬人の師なり。卿們此旨を時々民間末々まで觸知し。めよと宣ひ。三公九卿も。月卿雲客同音小あつと感。実難有倫言ふ。各王命の趣を諸道の民へ觸渡。萬民感涙を流し。王の徳を稱せ。浄飯王。如是乃仁君。朝暮の政事正し。一日も怠りむ。三光明。小照し。土肥國豊小五穀年毎小登。世乃安靜。万民鼓

腹し。樂し。唱ひ。這王乃聖齡千歳を保。誓む。願ひ。然小三公乃一人。月光臣浄飯王。奏し。曰。大王乃仁徳海内小普く。國土年々小肥。百穀能豊熟し。猶國家の殷昌を思む。都城乃裡。地を擇。四箇所乃靈臺。筑築。春秋。其折々。大王自己。臺小登。り。民の耕作。行旅。往返を覽。勤。賞。怠るを厲。下民怠慢。業を勤。四天下。愈。静。溢。治。り。浄飯王。御。悦。喜。限。なく。是。朕。が。意。小合。り。急。地。を。擇。其。臺。を。築。よ。倫。言。ある。小。月。光。臣。領。掌。し。自。己。地。理。を。考。へ。百。工。を。聚。ふ。四。座。の。高。臺。を。管。造。去。む。小。百。姓。是。を。安。ん。ず。大。小。怡。び。我。大。王。治。國。の。為。小。靈。臺。を。築。ふ。報。息。乃。為。一。車。乃。土。一。礎。の。石。を。運。上。す。我。小。寄。聚。者。或。萬。人。乃。數。を。考。ふ。刀。屬。く。築。く。程。小。不。日。小。四。座。乃。靈。臺。成。就。せ。月。光。臣。欣。悦。小。勝。む。官。殿。小。金。銀。珠。玉。を。鑄。水。日。明。の。簾。錦。繡。乃。帳。心。約。也。及。近。磨。之。其。旨。浄。飯。大。王。小。奏。す。帝。歡。喜。斜。た。を。

緒臣下を従へて靈臺へ幸臨あり。文道乃博士を召筆道の堪能を擇み。四座乃其臺の名を額面小題をせし。博士們深く勘考し。先東の臺を青龍城と号し。春乃眺望小備南の臺。波梨舍那城と号す。夏の景色を臨み。西八月景城と号す。秋望の臺と。北並那離城と号す。冬の景色を望む。其臺と。是より淨飯王四季折々小頃いそぐ。の靈臺小御幸あつて。農耕乃艱苦行旅の疲勞を膺覽し。以愈朝政を正し。仁澤を施す。以多か夫小附て。睿慮を慰む。六春。遠山の霞融々として。微風萬花香枝送り。御衣乃袂。是か為小句を加。夏。玉階雲小排。蟬聲雅樂を送。薰風龍跡乃汗をなす。以秋。皓月錦帳を照し。瑟瑟たる涼風梧桐を拂。天津星も玉前小朝と。疑れ冬。四郊乃雪雲端。小暗臘日乃三白。将小羽。多年乃豊饒を奏する。か似。四季折々乃眺望限なく。面白れを。萬機乃御政務の余暇ある。毎小緒臣と俱。小靈臺小御宴を促す。君臣樂をも。小志。小或時日光臣冠を傾け。奏する。大王

受禪す。して。廣く民小徳沢を絶し。王化至ぬ。限も。い。小む。萬民業を樂。君を思。て。赤子の又母を慕。か。如。然。も。御代の悠。久。か。も。ぎ。人。吏。を。憂。ひ。樂。の中。小薄氷を踏の。怕絶。を。夫。天。あ。れ。を。地。あり。昼。あ。れ。を。夜。あり。春。夏。漸。々。小。秋。冬。沈。遅。と。草。木。の。花。咲。菓。結。ハ。皆。造。化。の。功。小。不。窮。の。道。あり。君。今。富。四。天下を保ち。貴。と。轉輪王。れ。を。御望。と。可。ま。る。吏。す。ま。れ。れ。も。只。闕。小。所。ハ。后。妃。の。小。宜。く。才。色。勝。る。夫。人。を。擇。む。宮。妃。小。備。へ。御。代。を。副。む。ハ。是。太。子。を。儲。む。と。奏。す。れ。満。座。乃。緒。卿。大。小。感。歎。し。突。よ。も。中。ま。れ。る。昔。小。維。多。此。首。小。存。せ。さ。る。乃。大。臣。乃。奏。聞。こ。と。萬。代。不。易。乃。針。策。何。吏。此。上。の。い。か。れ。仰。願。小。宮。妃。を。迎。せ。む。以。臣。下。及。び。萬。民。乃。心。を。安。く。し。ち。む。と。異。口。同。音。ふ。と。奏。し。る。大王。借。睿。聞。あり。群。卿。乃。奏。と。所。其。理。あり。と。以。も。朕。又。王。乃。位。を。受。継。て。未。だ。裁。許。も。あ。ら。ず。然。小。早。く。后。妃。を。迎。む。恐。く。ハ。色。小。荒。乃。繕。を。唱。れ。乱。國。乃。端。由。曳。出。さ。ん。と。辞。ふ。を。日。光。臣。亦。練。て。曰。陰。陽。和。合。天。地。の。定。理。男。女

夫婦八人向乃大倫あり大王御年若く在るとも后妃を迎へて何の憚りも
と約を盡し練奏し多ふと浄飯王のまの争ひを以て此六卿が勤
順登しと宣ふと日光臣より緒大臣歡喜踊躍し御世長久の基何事此
上のいざなとて御宴は閑た舞樂を奏して衆萬歳成と綱々時月光大臣
進み出く曰古より善道早く行ひ悪道早く退けよと縋り維つてあき
后妃不備が程の才色全た婦人あり早く啓奏有いと告ぐと烈後が
と同意し我れと冠を傾け后妃不具が程佳人志ふら書紀し三大臣
呈と其數凡一千五百余人とて安んず

善覚臣二女入内

斯く群臣退出し緒臣下り執達を所乃美婦人を悉く召寄王の睿覽
小具多し其中小好容夫人芙蓉夫人とて衆女の中より特勝し佳人を擇
出むひ好容夫人波梨舍耶城に住し芙蓉夫人と並那離城に住し

然もいまだ浄飯王の睿慮不稱ひむまふやと龍顏嚴くんえ玉を
然不或官人奏して曰緒大臣千五百人の官妃を擇ぶ献と又もいまだ絶世
乃佳人をもちと臣史西徑道の内仙樂國乃守官善覚大臣二人の女あり
姉を嚮曇彌と呼妹を摩耶と号しとも無雙の美人あり肩翠羽の如
く面白しは儂く素雪の膚妙やて楊柳の腰和やふ是れ増と今も其
其長高く是れ減と今も其長短く嬌然とく二と咲む海鱗浮む由天のかせる俊才あり歌舞吹彈の
嬌然とく二と咲む海鱗浮む由天のかせる俊才あり歌舞吹彈の
道よりを更かり萬の技藝不達せどより更なり矣天上の菩薩の如
と傳言の大王も后妃を需むとを早く勅使を仙樂國遣はして善
覚臣二人の女を迎むとを勸むり浄飯王渠が鋭とく瓜皮むいて忽
ち恍惚とく酔るが如く睿慮大に動れ即時三大臣を召まき急いで善
覚臣二人の女を召上とを宣旨あり日光月光星光の三臣紀命と奉り

群臣の中其奇才を詮議。年古無双の知臣巴津那と云く者を勅使と
 しく。仙乘國へ遣はさる。巴津那王命を奉りて金銀珠玉の聘物と齎
 しく。仙乘國の善善覚臣が館舎に到る。此旨疾仙乘國へ告ぐ。倉卒の
 王命何事やと善善覚臣は國人を觸れ道路を清浄させ自己官人を従て
 遠く迎接し。驛亭の餐應善美を盡し。其後勅使を引て館舎に請
 敬で宣言を待。巴津那臣笏を正し。倫言乃旨他乃子細ありて淨飯大
 王萬乘乃宝位即ちと云く。且つ后宮の具を死佳人を得むと朝廷の
 緒臣下是を憂ひ普く四天下を尋りて一千五百有余の佳人。皆聚睿覽小
 備といふ。いま大王乃尊意小稱夫人ありと。然る貴卿の令愛姉妹も小
 絶世の風姿あり。且才藝亦秀あり。睿聞小達し。急に入内せむと云く王
 命なりと。勅書并小聘物と云く。善善覚臣勅使乃詞を度り心中十分小
 歡喜。禮を厚くて勅答し。是は恐ある倫言も。偏國乃微臣が女大王乃

宣言小預り。音龜乃浮木を得て天目を拜し。如く幸福何れ見小過は
 然るあれと。恐るる容姿醜惡。動止車賤しく。睿覽小備り不足却り龍眼を
 汚さの憚あれ。違勅の科は畏多かれ。宜く辞退の義を回奏し。云くを告
 ぐる。巴津那推返し。謙遜はさる。妻をれ。姉妹乃女の才色園生小染る紅葉
 の如。更小世小隱をれ。睿慮も茲小傾れ。王命已小下る上と。辞
 する。却り非礼なり。疾々令愛小勅命の趣を傳へ入内乃準備をなむ。強小
 勧めをれ。善善覚臣も。この目辞さる。恐ありと承伏し。其旨僑曇彌摩耶
 乃兩女傳。萬事準備乃間。客殿小於。勅使を百般小食應。管侍多
 斯く數日乃後入内乃準備調ひ。僑曇彌摩耶二人の女を十分小粧せ七
 室莊嚴乃車小乘。數百人の侍女重女小傳。姉僑曇彌小馬將軍妹摩
 耶小馬將軍と。智勇具足乃臣下を添。千騎乃軍馬小前後を警言固む。各
 黃道吉日を撰。仙乘國を啓行せ。加陀國乃都如毘羅城と云く。上る

勅使巴津那八是亦先々都城四り善善覺臣王命を領掌一二人乃女
を献るより奏聞一を浄飯大王睿慮嚴く巴津那が功勞を賞しむ以官金
城外遠く出二妃の乗車戎迎下兼て新小管建一宮殿清一敬清の兵
卒小數日與宴を賜う疲勞を休れ其後妻の金銀縑帛をよて
本國へ飯しむ以多り然し二人の妃を睿覽あるをよて清淨殿小召昇一
初二女を上覽ある小女一六百倍勝り國色あり三十二相八十種好を兼具
將小二莖の玉芙蓉隻咲る如く何き我捨せしやうなれを浄飯王十分睿慮
小緇ハ歡喜し一更斜をむ姉妹も宮中小留めらるが如し宣言有く
姉嬌曇彌八月小給り月景城小任一妹摩耶花小象り音龍城任一免
ふ是より浄飯王南北乃其臺乃御幸八稀小東西乃其臺乃之交々御幸有
愛幸一ふこと雙手の王乃如く月景城小鸞與を促し一貝破利遮那城乃
宮妃女官差次音龍城小鳳駕を停し一夜並那離城宮女侍官嫉妬媚を

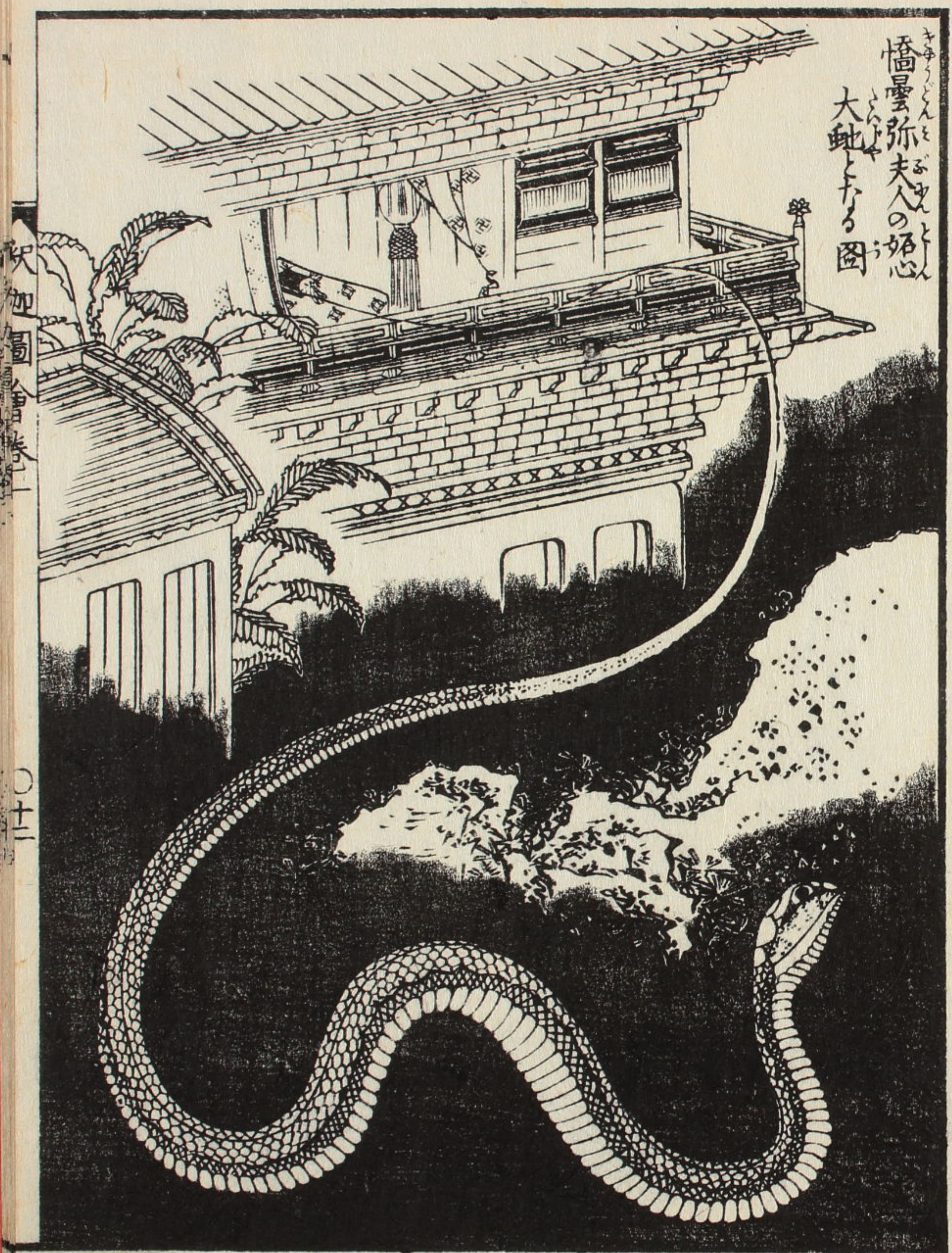
街ハ粧ひを凝し龍駕を迎んをより浄飯王二人乃后妃の睿慮一
緇ハ世亦就ても又善覺大臣を賞せむ有るをよて小國乃王小封
仙乘國を賜りこれを善覺大臣大不歡び深く帝恩を謝し漢土西洋乃
珍玉奇珠をもち其餘天下乃宝を集七車小積飾し自身見守清
伽毘羅城へ上り奈内一龍顔を拜し封爵の天恩を謝し七車の宝を献
るハ浄飯王睿慮淺く大與宴を同妓樂を奏せし重く管侍一
ふ小家の面目世乃名譽此上有るをよて見者聞者羨ぬハなり四
天下乃人皆花顔女人生人妻を願ひ
摩耶夫人懐妊
夫天地物を妬や秋乃月明朗なるをよて浮雲是を覆て曇世春乃花
爛熳なるをよて風雨是を傷し散る唯月花乃なるをよて人間の上下
已て此憂ひ妻しさるる小善覺臣の女嬌曇彌摩耶乃両夫人浄飯王

乃愛幸厚を望みて足らざるを願て満ちるを何乃不足もあるま
トウリ多ふ。忽ち同袍仇敵の怨を結び内心三毒乃劔を磨吏とハナリ多
其濫觴を尋る姉妃憍曇弥夫人の心ハ今般の勅命不就入内せを躬こそ
后妃小具り。摩耶夫人父母の絆返さるべと思れ多小案の外姉妹も宮中
小留られ兼ての思惟齟齬深く摩耶夫人を恨。凍妹姉妹の礼義を
思。及令大王乃宜旨下ると固く辞して古卿へ皈るべ左ハなく我顔
小姉と君寵を争んとするを悪すれ。遮莫我身色残飾り刻を巧小
大王乃睿慮を傾んと。御幸ある毎お媚を凝し情を盡せども淨飯
王ハ四室の宮妃乃中も特小摩耶夫人乃色香深く。郎操正たを愛むひ
青龍城の臨幸重り多。憍曇弥夫人深く嫉妬の念成生。あれ隙有
む妹夫人を絶し退けをと思れ多を薄情り多。抑婦人乃身貴賤とふ
嫉妬の毒念萌と時ハ無明乃闇小迷ひ七百生の其間青躰乃蛇身と生

放稟熾乃息を吐三時中魚量の若患を受ると。緒天も救ひも吏能守慎
むるハ妬なり。斯く憍曇弥夫人乃日小増夜小増摩耶夫人を妬憎む心
増長せハ日都城の裡小住なく。青龍城を音信を断。あを貞小過され
程小上を學ぶ下のハ傳官馬將軍も。月景城乃女官婢們も。摩耶
夫人主従を嫉み縹り。然も摩耶夫人も妻を愛め知むを固り孝
悌乃心深た本性を此頃月景城より音信のなれを思煩ひ鳥將軍と高儀
一々日小音物を贈り。消息を通う。安否を紡といも一度も回答なれ
摩耶夫人も愈心成い。あひ寢食を安んず。唯快くしてどおハなる。然も
一陽乃春乃朝宿木花咲鳥雀乃囀を。あふも心慰む方なく。三秋乃秋
乃夕紅葉照る。月影をわかめ。あふも夏成る。媒となり。夜の衾小夢も
結む。歎れむ。ひく。一夜淨飯王青龍城小駕を促し。むひ摩耶夫人と。あ
酒燕を催され。絲竹妓樂の御遊。あ。後翠帳紅圍小枕を。あ。階老

の濃かりき。俱一睡成催。玉ひさる小忽然。く虚空小音楽
 支々れを摩耶夫人思ふ。枕をひげ玉殿より音小ありさけん。小空中小紫
 雲籠鍵。くふびた其丈几十六丈許なる金色の密塔雲中小後算。其周小
 黄金乃幡八流七窟乃密樹八本微妙無双の英咲出。夫人奇異のみひと
 かく尊くも又怪と思ひ瞬もせどな。あひ小件の英閑とひく。花の中
 小無量の佛出現。金剛合掌。くむひく微妙乃御声を發。異口同音小拜
 戴尊嘉十方最勝佛無上覺哉光明無量尊。衆生智願皆満足。三身四滿
 皆成就と唱。玉ひは。密塔を礼。くむ。不思議なる。密塔の四面の扉自茲
 開た。其中小赫々たる。大日輪。く。其内小金鉢の御佛端座合掌。く玉
 ひ妓なる御声を發。くむ。我得成道久遠劫平等衆生一子地智願満足
 今現在到来。結縁緒佛智と唱。玉ひ。何國よりともなく忽ち六牙乃白象
 音蓮花を頂た佛前小出来る。其時御佛密塔を出蓮花の上。授り座。玉ひ

く御額の白毫乃光明十方を照。く。其光摩耶夫人の頂小映。く。后妃の
 心神清。く。爽なる。く。限り。く。不覺小隨喜の泪を流。く。恭敬礼拜。く。其時
 佛后妃不對。く。曰。如何夫人。予宿世の因縁深た。く。今此所小来る。く。浄飯王
 を父と憑。く。御身を母と頼。く。塵土小出生。く。魔魁縁を降伏。く。一切種智を成廣
 く。緒天人衆を利せんと欲。く。願。く。后妃須臾。予小胎内を借。く。とを曰。夫人大い
 小發た。玉ひ。是ハ恐ある。御更々。素り五障。三毒の罪深く。不浄汚穢の婦女乃
 身争。く。尊た御佛を胎内小宿。く。なる。た此義。怒。く。お。く。と。辞。く。玉ひ。佛重
 く。曰。否。く。よ。夫人。さの。辞。玉ひ。を。已。小。因。位。乃。時。等。衆國の都城緊耶良賊乃
 主法。法王。と。帝。小。一人乃皇女あり。其名を瑠璃女と号。く。玉ひ。幼稚。く。母小
 後。を。夷鳩陀夫人。と。繼。母。小。事。く。至。孝。なり。時。小。夷鳩陀夫人。と。二人の皇女を
 産。其。名。を。光。耶。女。と。号。く。玉ひ。姉。瑠璃女。其。容。色。遙。小。勝。く。れ。を。夷鳩陀夫人。と
 常。小。是。を。疾。く。妬。く。如何。く。玉ひ。瑠璃女。を。追。失。た。く。巧。く。玉ひ。至。孝。の。皇。女。あり。は



幡曇弥夫人の妬心
大蛇とたる図



摩耶夫人
霊夢と
見ゆ図

其便を得て年月を送りて、小東陽國の王、妓莊嚴王、瑠璃女の孝負ゆて
且容見の勝り、より成安迎て、后妃不備人、高儀あり、より成夷鳩陀夫人、早く
傳、日頃乃、妬心、弥増、妬めて、吾所生の光耶女を、妓莊嚴王の宮妃不備人、種々の
謀針を、より、瑠璃女の科を、殺け、法家王、不統、より、父王、継母乃、諂を、信、遠小
瑠璃女を、等、兼國の北、切陀、羅山、捨、瑠璃女、身、不覺、を、無実の科、其
と云明さん、継母乃、罪を、顯、を、不孝、を、是、非、を、科、小伏、実母乃、遺物、淨光
菩薩乃、統、解脫、血盆、經を、執持、切陀、羅山、小赴、此、崖、小住、血盆、經、千部を
書写、一萬部を、續、自、小、七種、乃、菓を、楮、三箇、乃、灯を、く、げ、心、懈、怠、を、
燈明、光佛を、初念、より、其、戒行、乃、功、力、不、依、今生、花、顏、端、嚴、の、身、を、産、を、淨
飯王乃、愛、幸、成、得、歡、樂、を、極、を、成、り、此、を、尋、く、乃、經、を、書、写、せ、功、德、深、く
六根、清、淨、乃、德、を、具、自、月、乃、光、を、汚、ま、六、色、の、障、を、成、り、予、其、時、乃、燈、明
光佛、是、なり、不、結、縁、を、今、御、身、乃、胎、内、を、借、を、成、り、予、其、時、乃、勿、ま

と、流、む、影、乃、ま、と、許、小、近、寄、む、摩、耶、夫、人、佛、言、を、出、感、涙、を、流、か、猶
辭、ま、と、と、双、手、を、合、ふ、不、思、議、を、成、り、夫、人、乃、掌、の、裡、より、廿、八、葉、の、青、蓮、花、生
出、り、其、時、御、佛、白、象、の、背、を、離、夫、人、の、掌、中、乃、蓮、花、上、小、乘、縁、ら、せ、む、微、妙、の
御、声、を、發、む、我、得、成、道、今、現、在、往、來、娑、婆、八、千、度、為、度、衆、生、常、説、法、已、今
當、來、諸、佛、智、と、唱、を、む、玉、の、珊、瑚、乃、乳、房、を、な、り、右、乃、脇、より、影、の、如、く、胎、内
へ、宿、り、む、ひ、多、夫、人、發、見、是、を、恐、妻、と、我、身、を、抱、死、見、む、五、鉢、六、根、清、く、小、盆
中、小、白、玉、を、裏、か、如、胎、内、より、明、々、金、光、明、を、輝、六、根、六、識、を、照、む、夫、人、廓
然、心、明、三、世、乃、因、位、眼、前、見、か、如、前、生、後、生、見、え、り、前、佛、乃、流、む、
一、因、位、乃、昔、語、も、疑、り、其、實、事、を、悟、り、我、が、不、思、議、を、有、か、事、を、
と、感、歎、む、其、時、六、種、震、動、河、汝、乃、菩、薩、諸、天、各、來、現、む、戴、乳
佛、母、除、難、守、護、諸、佛、燈、緘、と、音、小、唱、夫、人、を、礼、拜、む、后、妃、大、小、發、見、六
勿、鉢、乃、と、恐、を、有、拜、せん、む、忽、然、夢、覺、り、此、時、淨、飯、王、も、眼、を

覺一稍歎息呻吟（い）心（ろ）を収（め）後妃（い）對（か）朕（ん）今（ま）奇異（い）の夢（ゆ）を（み）ん（り）
然（し）る（ふ）今（ま）卿（い）の顔（か）を（み）ん（り）平（ら）且（つ）異（な）く（直）天（ん）の如（し）不知（ら）卿（い）の夢（ゆ）を（み）ん（り）や
否（い）やと向（む）身（み）是（れ）依（ら）く夫（ふ）も包（む）となく夢（ゆ）想（さ）の始（は）終（は）を結（む）り也（い）淨（じ）飯（ん）王（わ）大（お）小（こ）歡（ん）喜（き）
一（い）か（ひ）起（こ）く夫（ふ）人（にん）を札（し）拜（い）朕（ん）見（み）る所（し）の夢（ゆ）も正（ま）斯（し）乃（の）如（し）是（れ）緒（い）天（ん）朕（ん）小（こ）太（た）子（し）と授（く）
也（い）小（こ）疑（い）ち（し）く（膚）感（ん）し（也）と限（り）か

憍曇弥嫉妬招摩手耶

斯（ま）摩（ま）耶（や）夫（ふ）人（にん）之（の）其（の）習（し）音（い）より身（み）の重（あ）死（し）事（じ）を覺（お）か（ひ）れ（る）愈（い）夢（ゆ）想（さ）の違（ち）が（ら）然（し）感（ん）一
起居（き）飲（い）食（じ）を慎（し）み（也）也（い）淨（じ）飯（ん）王（わ）夫（ふ）人（にん）の身（み）小（こ）過（あ）失（ま）わ（る）せ（し）とて（い）醫（い）官（く）小（こ）妾（め）昼（ひ）夜（や）の
脰（し）脈（み）急（い）く（緒）の女（に）官（く）姝（し）女（に）命（めい）も（舞）歌（か）吹（ふ）彈（だ）を（た）ち（緒）般（ぱ）乃（の）枝（え）莖（か）を（さ）せ（て）且（お）
夕（ゆ）夫（ふ）人（にん）乃（の）意（い）を樂（た）し（慰）む（ひ）り（也）也（い）音（い）龍（り）城（じ）乃（の）男（に）女（に）傳（で）官（く）鳥（た）將（し）軍（ぐ）夫（ふ）婦（ふ）を（た）ち
婢（ひ）女（に）下（げ）官（く）の（悦）と限（り）か（太）子（し）乃（の）降（か）誕（た）を待（ま）と（早）小（こ）雨（あ）を乞（こ）か（如）此（こ）事（じ）維（い）
告（つ）る（と）か（月）景（けい）城（じ）宮（みや）を（れ）ん（さ）ん（ぬ）不（ち）嗔（ち）嗔（ち）の（焦）小（こ）胸（む）を（焦）と憍（き）曇（と）弥（み）夫（ふ）人（にん）大（お）小（こ）

珍（ち）れ（ん）心（しん）中（ちゆう）燒（しやう）が如（ごと）妬（ね）心（しん）日（に）来（ら）小（こ）百（ひゃく）倍（ばい）喜（き）小（こ）大（お）王（わ）乃（の）寵（ちゆう）愛（あい）妹（い）摩（ま）耶（や）乃（の）芳（ほう）も（上）渠（じ）早（さ）く
王（わ）の胤（いん）を身（み）小（こ）宿（しゆく）一（一）太（た）子（し）降（か）誕（た）あ（わ）る（を）愈（い）勢（せい）ハ（妹）小（こ）奪（だつ）れ（女）在（あ）る（も）無（む）が如（ごと）く
人（に）是（こ）朽（く）惜（し）や如（ごと）何（なに）せん（と）錦（きん）帳（ちやう）乃（の）内（ない）小（こ）心（しん）を（憂）ひ（む）く（今）思（し）小（こ）絶（たつ）く（傳）官（く）
馬（ば）將（し）軍（ぐ）次（じ）近（きん）招（しやう）て（日）頃（けい）日（に）宮（みや）中（ちゆう）の風（ふう）統（とう）ハ（音）龍（り）城（じ）乃（の）摩（ま）耶（や）と（皇）子（し）を（娘）姝（し）
大王（おお）乃（の）覺（お）か（ひ）れ（る）百（ひゃく）司（し）百（ひゃく）官（く）乃（の）尊（そん）敬（けい）重（じゆう）し（其）事（じ）実（じつ）事（じ）也（深）安（あん）と
皇（わう）子（し）必（ひ）産（さん）か（る）必（ひ）定（てい）后（こう）宮（みや）女（に）御（ご）乃（の）宣（せん）旨（し）を得（え）と（上）乃（の）ね（鷲）鳥（たう）乃（の）舉（き）止（し）を（り）益（えき）妾（め）と（成）如（ごと）
小（こ）朝廷（てう）乃（の）緒（し）卿（い）乃（の）由（ゆ）更（ま）り（末）乃（の）民（みん）市（し）余（よ）も（妾）を（侮）ん（後）指（さ）を（指）れ（小）
い（れ）此（こ）身（み）乃（の）耻（し）辱（じく）か（る）也（所）詮（せん）頼（らい）れ（世）不（存）命（めい）も（身）小（こ）憂（う）妻（さい）を（み）ん（り）小（こ）速（す）小（こ）自（じ）
害（がい）して（黄）泉（せん）の（人）と（あ）る（た）れ（之）大（お）王（わ）乃（の）俄（が）の患（わづ）病（びやう）中（ちゆう）死（し）去（し）と（妾）を（名）世（せい）乃（の）戒（かい）
行（ぎやう）拙（せつ）も（非）命（めい）乃（の）死（し）を（か）と（一）念（ねん）六（りく）靈（りやう）鬼（き）と（方）摩（ま）耶（や）乃（の）皇（わう）子（し）乃（の）妓（ぎ）也（大）王（わ）乃（の）妾（め）
乃（の）苦（く）腦（のう）を（見）せ（し）も（今）乃（の）惡（あく）を（暗）く（人）努（ぬ）く（此）言（ごん）を（人）小（こ）洩（しやう）と（妾）勿（な）く（憤）怒（ど）の（泪）
と（俱）小（こ）語（ご）れ（る）馬（ば）將（し）軍（ぐ）惘（わう）然（ぜん）皆（た）時（じ）默（もく）然（ぜん）と（言）句（ご）也（妾）世（せい）乃（の）在（あ）る（小）稍（しやう）有（う）

心成鎮り色成正しく曰脚憤りの首理至極ふ去なり。脚自害ありんと
然るがごとく摩耶夫人嬢妊ありし未だ皇子と皇女とも定めざり。若脚死去の
後誕生の皇子皇女ありしを命成捨てり。甲斐りし人ら臣が浅見よよ。摩耶
夫人の出産成妨るる如く。已に臨月を過ても降誕なを必定患病あり
と。大王医官召く。薬石成調進せり。人其虚も兼じて。遂に乃薬成用ひる
が。存する所。皇子小あれ皇女もあれ血水とらん。何の疑ひも成然して
後君大王の睿慮を傾けむ。妹夫人の電成奪ひ去り。何ぞ難くん。幻を盡し
て。練りたる。嶋曇弥夫人馬將軍が練の幻を空く。眉を顛り。婦人成孕て
十月を待て。出産する。妻尋常なり。然るも如何なる術を以て。其道を塞ぐ
るや。おぼろげの妻をかく。萬露頭なる時。犯罪の科免多し。と。你妻が死
を止ん。正に成虚誕をり。妻勿と難せらる。馬將軍元尔と。深園の
内。の。在る。世上の妻成知るるを疑ひ。小理なり。茲に仙乘國乃。良小宿陀山

と。山。の。其。山。の。領。行。ひ。と。せ。神。仙。あり。名。成。阿。闍。部。仙。と。縋。り。曾。く。金。衛。國。の
王。乃。息。小。逢。く。妻。あり。斬。罪。せ。れ。ひ。然。る。阿。闍。部。仙。の。入。の。後。弟。猶。彼。山
栖。其。名。を。儀。伯。仙。無。間。仙。と。号。二。人。の。師。の。秘。訣。を。傳。へ。神通。自在。を得。風。小。乘
雲。小。駕。し。奔。獸。を。倒。飛。鳥。を。隊。主。と。事。掌。の。物。を。弄。する。如。く。石。を。變。じて。金。と
土。成。煉。く。人。の。か。の。の。妙。術。あり。君。彼。二。仙。人。を。召。き。計。巧。を。需。む。摩。耶。夫。人。の。生
産。を。妨。人。妻。難。く。言。上。り。これ。嶋。曇。弥。大。小。歡。喜。あり。君。告。所。の。如。人。
妻。ま。何。成。夏。な。れ。急。二。の。神。仙。を。結。招。せ。し。命。せ。ら。る。小。馬。將。軍。領。掌。退
く。腹。心。の。者。小。密。意。を。云。合。宿。陀。山。と。遣。は。る。是。小。依。く。使。者。夜。を。日。小。經。り。仙。乘。國
なる。宿。陀。山。小。到。り。儀。伯。無。間。の。二。道。師。小。錫。馬。將。軍。が。密。意。を。告。れ。二。道。師。一
儀。伯。及。む。と。承。伏。し。直。小。柵。を。起。す。使。者。と。俱。小。縮。地。の。法。を。以。て。不。日。小。大。陀。國。月
景。城。へ。と。來。着。と。馬。將。軍。大。小。悅。び。長。途。の。疲。を。勞。ひ。後。堂。小。結。種。々。及。良。應。て
後。人。を。退。け。密。小。女。主。乃。漏。乃。音。趣。を。語。り。儀。伯。無。間。曰。と。曰。是。守。守。閑。の

義子に尊夫人小拜賜して其手段を言上りゆせしより馬將軍二人を盡て橋
曇弥の御前出斯と通ども夫人錦帳を出て二道師對面あり先きの珠玉
財帛を賜ひ借摩耶夫人の生産を妨げなれ術を常ら儀伯仙曰倫言小奴に
妓后の御賜争う違背しなれ去る。我ら仙術の中呪咀調伏の法小七壇の品の
就中姓娘の道を閉塞する容易の更ふらむ其姓婦の面見を眼下小見其女
写生とり形代を造り是を中埋り四箇乃壇を築き秘法を行ひて終ふ出産の
道を塞ぎ年月を重ねると胎子降誕する更能はと襖袍の内成長して母子
を亡しつるも其人を見れば法を行くと能はると言上と橋曇弥生る太子悦
ひむ妹摩耶を此宮中へ招き寄人といと安れ更なり。然るも頭小道師對面ありて
容兒を写しせむ左右必と怪し禍を生れ又唯人志れを罪罪の内小潜居て其形
代を造り命と命とを両仙人むと承伏し其日御前を退れり橋曇弥女官小命
しつ墨筆をとり寄即時妹夫人を招き寄る消息をいと長くと約巧ふも織

く書きたり心利する女官を書使して音龍城を遣はれたる噫呼浅猿ふましも
親し骨肉同胞乃姉妹も君寵を争ひて忍ち仇敵となり毒針を用ふる事
偏小嫉妬の悪念のな所なり恐るが慎むを斯く又使の女官音龍城到り
いより通下れむ鳥將軍肩が擧め是近月景城當方より音物消息を口手
事幾度と敷を知らぬ一度も回報あらず小俄小文を齋越事其意得む
と思ひ女官の姉君乃消息かれを捨置ん中うな使女成伴ひ摩耶夫人の御前
出斯と執達しつる夫人を夢も姉君の妬心を知らむ御嬢姓を祝ひ御使と
聞かむ御悦び浅くも御消息つる三度推戴か鳥將軍を顧み白是見えや
鳥將軍日來今乃姉君小隔意もすまを如くはれ何奈も更あらん思ひ
小果しつる御文賜つるも怡悦の色あられ頓て文井閑閑續きつる
小素り深く巧も更たれ筆乃歩も濃小是も敷度音信かと口袍乃中
成裂人とも者あり一度も妻小達せと却て此方乃事を悪さぬ奏聞あり

かんと御身の事を鏡言とる者有らば此頃其巧と更願れ其人を追はし侍りね
くれを見方より度々進せし消息も彼曲者乃妨げや御許へ届くべくと推
量りぬ免れ角も人乃妬むる薄情ありと申敷れ其れ風小はまむいふ
君乃貴胤を孕むひより妻が嬉さ物敷なくと古國乃又母の歡喜推量れ頃
おも忝り悦び祝せむりく思ひいふ聊勞患ふらづの意なむむ女とて更向進
せぬとも婦人の身ハ乃大吏と安ん中もそれ心苦た難産有りと安んそれ
乃思煩ひ昼終日飯を甘ふこと夜終夜夢も結むとあれ願くは度此方来
り玉へつづり顔を見胎孕するまぬ足まわらぬいふ誠やふ書はけ
たれむ夫人公余りの嬉ま涙を流し以て操返しはあなち鳥將軍の對ひ姉君の
消息ハ又母乃文小異ならざる斯ま情深く仰越えを忝らぬ不孝なりとて久し姉
君小逢なむれむわづらも限なく急ぎ参内く大王小奏向。勅免を蒙らむ月
景城参らむれ準備せよと仰され鳥將軍承り仰さる更おはとも御妊娠の御身

を公路上遠く月景城赴たむを御慎なれ似たり。憍曇弥夫人乃御患病
とてきて大吏と中程乃更もいふ。御快復あらんを待て此方加馬を促しむとて
遅らるまじく唯其旨使文仰回され御幾駕の義思止すりむと練々れる取て
許容なく否とよ妻胎孕たりと心乃まぐしく更平日小勝りし然も姉
君乃余小背れ此方清くも公姉妹乃礼違り早く英回をげ月景城参る
るれ準備せよと曰わむ鳥將軍も主命再び背かす。遂小領堂く参内。夫人乃
願ひの旨を奏向。それ淨飯王眷圍あり。左も右も夫人乃意小隨分しと宣言有
是れ依て鳥將軍退出て立回。勅許乃旨回報さる夫人斜たむ歡喜むひ
文使乃女官小數多乃財帛を賜ひ先回され諸月景城乃贈物も種々
乃珍宝珠玉を三車小積載其身ハ芙蓉冠頂戴。繡衣を穿ち袿裳を被。彩鳳
輦小乗。音龍城を出む。傳官鳥將軍馬上中。前驅。數百乃姝女と五
彩乃車小乗。後從。其余乃輦路上。效樂を奏。外吏ハ前後を敬言固し。

月景城を臨むとどうせと名小女えさる國王乃寵姫摩耶夫人乃行装をまか
 其花麗なること繪入方なり是をらんく遠近の貴賤老若路上不充滿く
 雖乃地を殘まど駭くも更どなり月景城の使女乃回報の依る憍曇弥
 夫人針巧己小成りと大し怡び城外遠く官人を出く摩耶夫人乃駕を迎へ城
 内へ結入らる摩耶乃御身の危れ更石成抱く瀧小臨も水を踏く水を渉くも
 夫人とく危難を知らず女官の教導も隨く玉殿へ入る憍曇弥立出
 く姉妹絶く久れた對面ありふと妹夫人八年来わたりた姉君の顔を足お身
 平伏く礼を仰り別後乃素情成述嬉涙ふれ玉憍曇弥も偽く落涙
 同胞ひく此都城へ召まき起居を俱おせされ朝夕なれむはし更能く
 折々の消息さへ人乃為小隔妨られか意慕心通し今日来ひ顔をも嬉
 一さよ其とぞとく置御身はれ君乃御覺めく貴胤を主く孕きあ
 上一人より下萬民乃悦びさる古御の父母も嬉とあつらと推量られ妾か

心乃いさ察く疾も参り賀成由迷まなく思なご身の勞煩乃為
 小妨られ心を黙止ぬされと一度見り胎妊乃中か向進せされ心安堵
 平素わね御身を勞はると知れず斯く請進せね年々萬分懐く安
 り小皇子を産く見せ玉かんと巧言お云く傾く珠玉乃不皿盤をほね
 山海の珍味を饌く酒宴を催く諸般の妓樂を奏させてと管侍まゝる傳官
 烏將軍八憍曇弥乃心中其意得すと始より疑ひ思えれ若鳩妻を用らる
 巧も此中心を許すと礼儀を名く酒食も盡く先姉夫人小勸後
 我女主小勸む其誠忠至り盡く如何せん天眼通を得られた憍曇弥か
 奸計酒肉乃止あも却く傍なる簾中小儀伯無間乃二道士有く摩耶夫
 人乃形見を承秘く造写し呪咀乃形代とせんと為を知りく是非
 儀伯無間呪咀摩耶夫人
 斯く數射乃游樂乃ひまふ二個の外道八思倍后妃の容見を造り酒

橋曇弥不其音報ト多れ。夫人心裡小悦たのしみ比ひ稍しやう夜よ由よ更さら圍ゐ氣き不な盤ばんを収と。別べつ殿てん
 小こ妹い夫人ふじんおの後ご以も来き。女に官くわんを寐まし。其その翌あつ日ひ亦また摩ま耶や夫ふ人じんおの對たい面めん。斯しかく御ご身み
 を數す百ひゃく箇こちままり。氣きも君きみ乃の眷けん慮りよ量りやうをを且かつ先まづ青せい龍りゆう城じやうへへ回まわりま再また以も迎むか
 へ。妾めかけ乃の待まちり。更さら向むか進すすままるる。ととややされさるる。妹い夫人ふじんの餘あま波なみ盡じんされさるる。淨じやう
 飯い王おう乃の待まちり。更さら思おもひひをを再また會あひひをを約やく。別べつをを告つぐ。青せい龍りゆう城じやうへへ取とりまひひをを
 其その後ご更さら橋はし曇とみ弥や急いそぎぎ小こ兩りやう道だう士しをを招まねね寄よいいふふ。やや兩りやう人にん妹い夫人ふじんの形かたち容よう容よう然ぜん写しゃりと取と
 たりと。とと尋たず問とふふ。小こ儀ぎ伯はく無む間かん志し。顔かほ亦また答こたへへるる。妙まう后ご乃の意いをを勞らうりと更さら勿な
 き遊あそ樂び乃の間かん小こ妻さい乃の写しゃりとりとりと。其その形かたち代しろをを出いでで。又また橋はし曇とみ弥や夫ふ人じん其その成なりんとるる
 不ふ其その面めん貌ぼうををみみ。其その人ひと似にれれるる。五ご躰たいはは怪あやしし。忌いみみれれるる。其その故ゆゑ奈なん何いかんと
 向むかふふ。兩りやう道だう師し乃の曰いはふふ。是こゝ道だう家か乃の秘ひ法ぽう也なり。面おもて頭づかをを羊やう米まいをを月つき中ちゆうのの水みづをを取とりと洗あらすす七
 度なな然しかく後ご粉こなととななりり。是こゝをを造つくりり。五ご躰たい羊やう米まい葉はをを束つかむむ。束つかむむ。水みづ火か木き土つち五ご形かたち乃の串くわい
 ぶぶ。接つ合あせせ。青せい黄わう赤せき白はく黑くわく五ご色しき乃の縑きんをを是こゝをを捲まくく。是こゝをを捲まくく。頭あたま小こ箭やををささせせいいたりり。此この形かたち

代しろ不ふ百ひゃく十じゆ根こん乃の釘くわいをを刺さすす。中ちゆう不ふ埋まい。秘ひ法ぽう乃の供くわう物ぶつ燈とう香かう成じやう具ぐ。丹に絨じやうをを凝こりり。祈いのりりをを
 胎たい子し成じやう母ぼ親しんの筋すぢ骨こつ不ふ摺すり着ちやく。數すう年ねん乃の成じやうるる。出い生しやう乃の更さら能なり。遂つい小こ母ぼ子し乃の命いのち
 成じやう人にん更さら疑ぎををいいとと。ききもも誇たかぶぶ。云いふふ。乃の夫ふ人じん歡くわん喜き不ふ勝しょう。とと。ききもも意いにに調てう伏ふくの
 祈いのりりをを始はじめへへとと命いのちずするる。兩りやう道だう師し領りやう掌しやう。地ち位いをを考かうふふ。中ちゆう不ふ掘くわるる。七しち尺せき乃の形かたち代
 小こ百ひゃく十じゆ根こん乃の釘くわいをを刺さすす。是こゝ乃の埋まい。其その周しゆう不ふ四し箇こ乃の檀だんをを築きづくく。東とう方ほうをを息そ災さい檀だんとと号ごう
 西さい方ほうをを敬けい愛あい檀だんとと号ごう。南なん方ほうをを增ぞう益えき檀だんとと呼よぶぶ。北きた方ほうをを調てう伏ふく檀だんとと云いふふ。儲たくら祈いのりり乃の具ぐ乃の木き
 瓜うり乃の花はなをを華け鬘まんとと号ごう。白はく蛇だ乃の膏かうをを写しゃすす。水みづ不ふ港かう。燈とう火か不ふ蝦かま蟻ぎ乃の油あぶらをを洒しやうすす。燒しやう香かう塗と香かう
 不ふ射しゃ狼らう乃の骨こつ成じやう燒しやう。四し方ほう不ふ三さん尺せき乃の白はく又またをを立たてて。其その余あま種しゆ乃の供くわう物ぶつをを供くわう。儀ぎ伯はく無む間かん乃の兩
 人にん髮はつをを乱らんすす。跣はだか不ふなりり。檀だん不ふ上じやうりり。天てん血けつ女に地ち血けつ妄わう業ごう。女に七しち德とく七しち性じやう五ご形かたち五ご位い内ない縛ばく縛ばく
 屠と肉にく乃の法ぽう業ごう縛ばく般ぱん拏な無む明めい乃の印いん。種しゆ乃の秘ひ訣けつをを尽じんすす。肝かん膽たんをを碎くだしてして。祈いのりりをを多たくくふふ
 然しかもも是こゝ乃の為ため不ふ欲よく。畏おそ色しき畏おそのの惡あく鬼き邪じや神しん。萬ま氣き乃の惡あく盡じんをを孩わらくく。調てう伏ふく乃の壇だん上じやう壇だん下げ震しん
 動どう。護ご摩ま乃の烟えん黑くわく雲うん乃の如ごとくく。上じやう乃の恐おそしし。とと。亦また不ふ疎そなりり。儀ぎ伯はく無む間かん乃の兩りやう道だう士し乃の不

奇特を顕りて益國不兼。息又禮不儀伯迎へて敬愛禮不無間立増益禮不
 無間向へて調伏禮不儀伯立互小周り叩く。黒汗を流して祈る所不儀伯
 大地鳴動し埋り形代生るが如く地中より現れ出さる若しけ不音息を吐官中と
 睨視く衝立り一身の毛中取まき恐れた官中不儀曇弥夫人垂て下り呪咀の始終
 を見定めて居むひ多ふ今調伏の形代已と現き出り成る女官不命にて羽翠翠を
 まつと捲上させ。柵眉を上り形代不向の如何や摩耶夫人依姉妹乃礼を知らた
 大王強く留めむとも固く辞しなむ。父母乃國へ取らばおさかく色を衞ひ
 媚を巧ふし君寵成貪り。之女不辱成命恨を今と思知はも罵られを。形
 代中恨りけなる声を發し。妻素り姉君と榮利を争心あきれも君乃宣旨を
 如何せん。此の事女が皇子を胎妊せを執念深し如く倭臣乃言成納り親し同
 胞發呪咀し幼小恨しよ。それ因果を車乃論の傳さる如く。惡報御身不取せよ
 うち早く心を善道不翻し。道士を退けむへり其面見其音聲。摩耶夫人と露

違はれ傳居る數多乃宮女。面成覆ひ身を背け。戦慄せしり者なり。されも
 儀曇弥此の怖れを思ふの言の垂や姉妹乃縁も是限なり。よ道師われ
 小後幾許の苦患成えせよと仰せ。儀伯無間領掌。壇上赤湛る白蛇の膏
 を採り形代不洒を不側や今ま生るが如く。形代忽ち鏡前の木偶となりて
 地上不喘と作る二道士頓て是を曰のり埋り秘符成法けり再ハ出る吏を得
 らしむ。其後調伏の法悉く畢れを祭乃壇を毀ち。供物祭具を洪河の流
 せ。儀曇弥乃却前出調伏成就乃言成言上と夫人車其功勞を賞し種々
 小管侍も上金銀緋帛若干成賜ひるふ。二道士不悦び深く思を謝し
 宮中成退出し馬將軍不辭し別ま。月景城を出る不不思議なるふ。忽ち
 大地自然と裂儀伯無間苦と叫と等しく地中不投りる。地ハ白乃如く合して西
 道士ハ終不生方。奈落へ沈没し。是はひるふ佛菩薩の再誕あり。皇
 子成呪咀せ。罪成緒天の罰。ふふと心ある人ハ身成慄してを恐る。

摩耶奇病并夢中統法

摩耶夫人の月景城より青龍城へ取り返す中、久しく見へざる婦夫人の面
會し、その終りの詞を緘し、思食悦喜限り、將ふ秋風の雲を拂ひ、明月の光
が如く、平日より心とく、思召さるる或夜忽り、無量の惡鬼外道空中より降
り来り、千條の繩を以て摩耶夫人の五臓を締縛し、其苦惱堪らざる。拂をされ
ども、手足働まじ、叫んども、小声出ず、是は如何なる身なりや、更ぞと、恐ろし
き怨み、たゞか、強き一声あり、叫ぶ心、愕然として、目覚、是一場の夢也、脚身
ハ錦帳の裡に臥、残燈細々と、翡翠と、風小ま、た傳の女官ハ、熱熱寐して俯
臥し、夫人胸撫下し、諸の夢をり、りと稍心を安んじ、胸の裏に猶止む。五
臓骨肉疼痛、邪熱身成、焼か如く、神心悩亂し、女官們を呼覚し、おひ、藥
湯成し、せき、咽成潤し、なん、ま、程小夜ハ、漸く、ふ明、起出、人、氣、力、な
唯錦の褥の上、小衾、被り、阿臥、左、右、の、女官、夫人の平素、異む、休、小、驚

急に鳥將軍ふ斯と告ぐ、是れ大に疑はれ、即阿宮中へ馳参り、后妃の枕頭、
を寄、其容、跡を問進、夫人の苦げ、なる、声を息の下、引、入、前、夜、の、夢、の、更
を結、鳥將軍練、曰、此、夢ハ、心、氣、の、疲、勞、より、出、る、所、お、て、妊、む、は、足、を、察、さ、る、ふ
小君皇子成胎、妊せ、お、居、小、意、を、勞、む、其、疲、勞、凝、結、し、自、然、なる、奇、た
夢、然、も、ん、お、か、ら、し、これ、人、倫、の、胎、孕、ハ、天、然、中、く、月、満、た、る、皇、子、安、々、脚、降、誕、有
人、更、何、の、疑、い、な、ら、ん、唯、心、強、く、思、へ、お、云、諭、一、医、官、成、召、寄、藥、石、を、調、劑、さ、せ、
勸、め、か、ん、これ、夫人ハ、鳥將軍の幻を、寔、を、思、召、湯、藥、を、服、し、神、心、を、鎮、む、
骨肉の疼痛、隠々として、猶止む、是、も、胎、内、の、皇、子、時、々、動、た、る、覺、へ、
ひ、も、惡、夢、乃、後、ハ、女、も、動、た、る、心、中、空、なる、出、た、ら、ん、放、心、せ、如、言、結、を、
發、し、も、唯、よ、ま、結、る、心、地、お、朝、夕、の、飲、食、も、勸、む、宜、夜、深、圍、小、心、伏
む、お、鳥、將、軍、夫、妻、大、の、心、を、痛、ぢ、朝、廷、斯、と、啓、奏、し、これ、淨、飯、王、大、の、小、睿
意、を、發、し、お、即、阿、小、室、聲、を、聞、さ、る、青、龍、城、ハ、幸、臨、し、お、后、妃、の、帳、内、お、入、て

其容次女を覽まふ。志づの程小大の憔悴し、身小愈天意憐れき。懇小患
 病を問慰めむ。官人小勅して普く天下の名醫を召聚へ。后妃乃為小所有良劑
 を調へ。或高德乃道師婆羅門を招て病即消滅乃秘法を修せし。百
 針を盡し。快復を帶りむ。是ぞと思効驗もん。余りこれ淨飯王六十及
 朝廷乃群臣より百國の小王。及后妃乃父母善覺王夫婦乃憂愁淺く
 民間あ平のま。追もあこれ患病甲愈し。皇子安々誕生し。心小衍
 ぬ者なり。唯月景城乃嬌曇弥の。暗悦びむ。と淺猿より。斯く隻過
 秋も多。巳ふ十月乃月も満れ。今も皇子降誕む。淨飯王六日毎小青龍
 城使然き。小容膝を向む。脚産の氣をた。其月中空。暮十月十二月
 あり。其妻をれ。上下色然失ひ。再び天下乃良醫を尋。需り醫療。千成盡さ
 せ。曾其驗なり。遂其年暮。乃春と。如月弥生。只も
 愈脚産乃更なれ。二人より下萬民乃歎た。大を。増。況や摩耶夫人乃

脚歎た。小なり。脚腹の脹。小増。の。早十五ヶ月を過れ。臨産の々
 たり。只息喘。心苦。の。日夜添。今居起。小意。小任。せ。錦帳
 の内。歎た。沈。紅涙。小枕。を。括。む。余の苦。小思。は。け。し。中。過
 ける年。の春。の夜。の夢。小。妹。なる。佛。菩薩。の示現。を蒙。と。天。魔。破。自。の障。碍
 あり。斯身。を。悩。と。端。なり。も。の。成。さ。と。て。世。小。難。有。夢。然。て。と。悦。び
 君。小。告。又。女。小。中。女。小。あ。け。皇子。の。産。を。出。せ。成。千。年。ぬ。心。地。て。待。る。もの。を。豈。思。ひ
 たり。斯行。年月。成。重。て。の。降。誕。なる。と。さ。由。姉。君。の。悦。び。勇。ま。せ。む。早。誕
 たり。俱。小。耻。び。も。朽。か。る。思。と。若。由。絨。の。妊。娠。中。の。斯。數。年。の。日月。を。過
 ね。れ。如何。なる。鬼。畜。を。産。出。し。人。笑。小。や。か。る。人。是。成。思。ひ。彼。を。想。ゆ。生。ず。整
 ふ。いた。愧。を。ん。人。より。玉。緒。の。断。より。難。面。命。よ。あ。た。た。身。と。歎。の。余。り。小
 あ。ぬ。更。さ。へ。と。く。と。く。泣。明。一。後。暮。小。不。を。羅。縷。の。伎。乾。く。因。り。錦。繡。の。衣
 色。ら。つ。る。行。小。な。え。さ。む。ひ。たり。出。る。或。夜。過。来。し。思。ひ。出。深。く。歎。た。御

心倦疲ちりて睡眠むひくも勿や胎内より大光明輝た異香薫りて
 過はる年夢示現しむひ菩薩珊瑚の乳房を搔分胎内より出むとて
 忽然とて三十二相を具足せ玉の如く嬰兒となりて現れむひ微妙の御声
 我幾く曰いふや母夫人はまに御身の苦惱の余り予り御腹に孕まると天魔
 破旬の障碍と疑ひて更御理なき是逐ひの中逐たり我由天上の樂境
 を告ぐ人間界に生れ化をとも一切衆生の頑愚を憐れ生老病死の大苦惱を救ひ
 正覺をとせん為の大願なり何ぞ惡魔外道の所為なり死二回の嗔恚俱
 却の善根を燒捨りて更勿れ人界三箇の福あり生類萬億の中人倫と
 生る更是二箇の福なり人倫の中於て千萬の道理を知身となる是二箇の福
 かり萬の道理を知中於て能其深理を知至る身となる是三箇の福なり
 是を人倫の三生と謂り此他世界も十定の掟あり説くはせましく人
 其身尊而勿捨賤
 其身智而勿捨愚

其身修道勿殺惡人
 其身盛而勿捨衰
 其身誠而勿捨偽
 其身明而勿捨暗
 其身富而勿捨貧
 其身脩而勿捨不脩
 其身固而勿捨闕
 知因果縁勿恨他

是十掟古た世よりの掟なりて國王の十因とも謂り此理を不知して肆かも人非人と
 たり子となり或姉となり妹となり或公主となり或敵となり恨を結言語
 の中よ所ありて其一端を先年夢想小説等兼國の法婆王の後の后妃
 夷鳩陀夫人に即ち今の憍曇彌夫人なり生れ變り今姉妹と生俱ふ此都城に留
 られ淨飯王の愛幸を受る身となれ御身は過去の戒行に於て因り王の電
 愛深く姉妃に因位の惡報に因り王の電愛薄し是故に平素に嫉妬の惡念
 絶む皇子腹妊と皮えり嗔恚の切火愈熾なり其身八月景殿裡小

在り。一念の妬心十六丈の悪蛇となり。虚空の裡へ翻満。天地の悪鬼を
 招た日月の光を覆ふ。其上儀伯無間。又天の道師を招た言成巧み。御
 身成月景城。迎へ簾中へ彼道師を隠し置。御身より形代を穿し造りし。是呪
 咀調伏の始。出産の道を塞ぐ根本。其呪咀の法と纏む造紋。形代を
 土中へ埋む。緒の眞道無数の邪神を敬罵し。天血忘地血忘の邪法を以て人倫
 出世の門を七重へ塞た。内縛外縛業縛の秘法を以て。父母より受る二百六十
 余條の血脉を母夫人の平公骨へ搦着。般若無明の法を以て。日月の光を覆
 是成。数年の月を重れ。産出なれ。道なり。然も予は神力自在を以て
 降誕せんと安れども。さあろ。八幡曇彌の妬心益熾。なりて。嗔患の劫火の爲
 小我。我身を燒亡し。執著の悪念滅する期に。生々世々。御身へ纏りし恨を
 なきて。御身も其障碍の爲に。佛果を得む。更能ま。故に須臾其縛伏
 小を。出産の期を延し。姉夫人の悪念を永く断し。却る大道心の善女と

方便なれど心苦々と今女阿るひか。ませ彼呪咀せし二人の道師。天神地祇
 乃怒小觸。已生なき。地獄へ墮落し。無量の呵責を受る。苦患女阿も止阿を
 然もあれども。菩薩の戒行。予小寇する者。憎捨る更たく。却る彼が愚昧。小
 出。已が罪已を責る。殘憐む。更深し。依り。憍曇弥夫人の悪念消滅の期を待。予世
 小出生。難行苦行の功。成積成道。正覚を得。至來作佛の時。節小必む。凍們
 小呵責。乃苦患を救ひ。佛果に至む。唯何。更も因果の道理。悟る阿も。維
 戒好。推成り。悪む。日朝。小出。夕小没。月。望小満。晦。小尽。春夏。秋冬。乃
 四序。易々。押し。火乃熾。たる。火。燄。燃る。更。能。水。乃溢。る。皆。阿。小流
 没。増。て。人間。乃命。の。不定。なる。更。是。ホ。リ。由。猶。甚。花。を。折。り。日。中。小
 置。如。我。行。阿。惡。した。こと。得。べ。此。理。を。悟。り。無。常。を。觀。し。母。夫人
 今。金。殿。王。樓。小。傳。れ。錦。繡。羅。綾。小。纏。れ。彩。花。も。只。是。春。の。夜。乃。夢。小。心。く
 終。小。樂。尽。く。愁。生。し。阿。淳。の。塵。と。かり。夢。さ。る。早。く。愛。着。の。絆。を。断。し。心。小

佛景を願ひ一佛浄土の基乃上三明六通を具足しく。無為の快樂を極むべしと
 夢を思ふべしと先刻より鏡一更浄飯大手より維々あゆみ洩しより更勿きくより
 ゆゆ告ぐ嬌晏彌もあつ景城小奉仕る男女悉く刑されぬが。然ありて、御
 身の予も其罪七百生を徑るとも滅する期なきど努む此絨を忘すもあふの親
 とかり子となる更梵天より糸成垂滄海の底沈む針乃孔を通すとより猶得ぐ
 た契をれを御為悪くいへりいへりといへる懇亦說法しむ亦小女なる御手ゆ胸の
 間哉掻用を胎内小入せむひより其因麻手耶夫人と年来の病苦旭亦相の消るごとく
 心清り身躰初々健むかりを覚むべし。諸れ難有御更も余波惜た御更
 しく。自己胎内を念む。光明赫々しく胎内白王の如く透徹り先小出現む
 太子千條の線中搦著られぬ乳房を會く在せり夫人身を見むいへる落涙雨
 乃如くあふり。や。きも尊た佛菩薩の汚穢不浄の我胎内小入せむべしと。くま
 憂苦を見せする恐妻よと。我と御身を抱たり。一声苦と泣と思むハ愕然と

く夢覚む。夫人思ふを禱乃上小起り女何忙然々々居むひも。熟然
 夢乃中の更成思はげし始より終る。太子鏡法しむを一向も志す。更
 かく暗記しむ猶眼前ある如く。諸れ妻身乃起居苦たす。小先年昔
 菩薩の胎内小宿。あつ人々天魔被旬乃障得ふやと疑し。示現を蒙り
 しふこと唯思ひ。恐れ姉君乃嫁かり。今よ思ひ。月景城より既
 幾程なく世の心増り。彼二人乃道去呪。小こと思召ふ。身毛取す
 苦く。のとなり増り。彼二人乃道去呪。小こと思召ふ。身毛取す
 心寒く。具我身有。ゆゆ姉君。ゆる。悪た脚意も出来し。ゆゆは。姉君の科。ハ
 あつ。自己。かな。服かり。夢の中。鏡。一。十。定。乃。旋。の中。ゆゆ。因。景。の。理。を。知。く
 他を恨む。更。なる。の。御。示。を。難。有。れ。將。嬉。た。姉。君。の。心。を。和。け。却。く。大。道。心。乃
 善女と成。の。期。を。待。つ。世。小。産。出。人。と。宣。む。末。遂。小。平。小。皇。子。子。を。産。む。も。人。更。疑。ひ
 たり。ゆ。夢。想。を。蒙。り。上。亦。何。を。憂。な。れ。と。歡。喜。踊。躍。し。ゆ。更。限。た。く。これ

今ヤミクノ患病餘波ア王愈クハと健ふナリハ朝夕乃飲食由勸心由ラレト
 ナリセハハね然とも菩薩の絨を心小字や夢裡乃更にも成敢く口外志ハハガレタ
 傳乃女官もち鳥將軍夫婦由菩薩の神力乃を所ハ及中由ちと唯是医
 療乃功驗なりと思悦くと浅くも各日來困り心を安んト王宮へ此旨啓奏ナリ
 々々浄飯王も亦々睿慮を安んハハ傾小青龍城臨幸あつて夫人對顔ハ
 以患病平愈祝ハハ猶由保難を加をたり勅定ありて還御ナリハハ鳥將
 軍夫妻ハ后妃乃患病怠りハハ上ハ必定近たハ皇子降誕ハハ也ハハ只此上ハ
 平産ナリハハ久更を天地ハ祈リ今やくと日夜ハ待れども敢く御産の氣ハハ已ハ
 二年十月乃日を重ぬれハ若や御膝妊中ハハ血病ハハの所為ハハ疑ハハ
 人々心成とらハハ

釋迦御一代圖會卷之一畢

